

2. 事業の概要と成果	
(1) 上位目標の達成度	<p>本事業期間が終了する 2016 年 3 月までに、25 団体との間で災害時の対応・支援物資提供等に関する協定を締結した。また、協定締結には至っていないが、セブ市やダバオ市の商工会議所など 10 団体とも災害時の連携について合意ができています。2016 年 3 月に開催した国際シンポジウムにおいて、ナショナルプラットフォーム「アジアパシフィックアライアンス・フィリピン (A-PAD フィリピン)」の設立を発表。首都マニラをはじめ、ルソン島ビコール地方、ヴィサヤ地方、ミンダナオ地方でマルチセクター間の連携がさらに強化され、より効率的・効果的な災害対応を可能にする緊急即応体制が整備されている。</p>
(2) 事業内容	<p><u>ア) 全国及び各地方における防災・災害対応プラットフォーム組織の設立</u></p> <p>(i) プラットフォーム事務局の設置          防災・災害対応のための連携組織（プラットフォーム）を設立・運営するため、以下の通り事務所を設置した。またスタッフ計 10 名を雇用した（「」内は現地提携団体である CDRC が事務局を務める Citizens' Disaster Response Network (CDRN) を構成する 17 の地域団体のうち、主要 4 地方の代表団体で、各事務所は団体事務所の一部を間借りしている）。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・マニラ事務所@「Citizens' Disaster Response Center, Inc. (CDRC)」</li> <li>・アルバイ事務所@「Tarabang para sa Bicol, Inc. (TABI)」</li> <li>・セブ事務所@「Cebubohol Relief and Rehabilitation Center, Inc. (GRRC)」</li> <li>・ダバオ事務所@「Mindanao Interfaith Services Foundation, Inc. (MISFI)」</li> </ul> <p>(ii) 防災戦略策定会合の実施</p> <p>(iii) プラットフォーム活動計画の策定          2015 年 4 月 21-22 日にマニラ事務所 (CDRC) にて、オリエンテーションを実施し、防災戦略、プラットフォーム活動計画を策定。12 名が参加した（添付書類 1 の写真①参照）。その後も協議を継続し、事業実施に関する詳細や活動計画の策定、プラットフォームのコアバリューの設定、事業実施に向けたガイドラインの決定等を行った。</p> <p>(iv) 関係各機関（政府・企業・市民社会）間の調整会合          4 事務所を拠点として、地域のビジネスセクター、市民社会組織 (CSO)、行政機関、メディアや大学などと協議を重ね、災害時にいかに協働できるか話し合い、効果的な連携の可能性を探った。そのうち複数の団体とは後に協定締結につなげることができた。事務所毎の調整会合の内容は以下の通り。</p> <p><u>マニラ事務所</u> 2015 年 6 月 1 日に NGO「Philippine Disaster</p>

Resilience Foundation(PDRF)」と協定締結に向けた会合を開催  
 (添付書類 1 の写真②参照 PDRF については後述の「3. 事業管理  
 体制、その他」を参照)。

アルバイ事務所 2015 年 5 月にはソルソゴン州防災局長に面談し  
 A-PAD プラットフォームについて紹介し、さらに、自治省が進める  
 地方自治体レベルの防災政策である「Operation Listo」施行の機  
 会に CSO、地方自治体との話し合いに参加した。その後、メトロナ  
 ガ (Metro Naga) 商工会議所、レガスピ (Legazpi) 商工会議所の  
 ほか、Albay Public Safety and Emergency Management  
 Office (APSEMO)、Metro-Naga Development Council と今後の連携  
 に関して協議するための会合を開催した (添付資料 1 の写真③参  
 照)。

セブ事務所 2015 年 6 月 19 日の初回の調整会合にはセブ、ボホー  
 ル、東ネグロス州で活動する CSO 8 団体から 19 名が参加。A-PAD の  
 プラットフォーム構想を紹介し、防災対応の共有や、直面する課題  
 について話し合われた。今後の A-PAD の活動への賛同が得られた。  
 11 月 24 日の第 2 回調整会合は、CDRN のパナイ島、ネグロス島、セ  
 ブ、ボホール両島、レイテ、サマール両島の各地域団体の事務局長  
 と主要スタッフら計 13 名が参加し、今後の地域でのプラットフォ  
 ーム構築の進め方について協議した。また 2016 年 1 月 15 日には各  
 地方自治体の防災担当者と CSO の代表者の参加を得て、第 3 回目  
 の調整会合を開催し、それぞれの防災対応とそのギャップ、課題や、  
 今後協力が可能な分野について協議した。中でも民間セクターが関  
 係者間の連携において今後積極的な役割を果たしていくべきと強調  
 された (添付資料 1 の写真④a、b 参照)。

ダバオ事務所 2015 年 6 月 22、23 日にミンダナオ島を拠点に活動  
 する MISFI と CDRC の地域支部である 3 団体 (DIRECT、BREAD、  
 KADAIT) を交え、A-PAD 事業の紹介とともに、今後の行動計画や協  
 議の進め方について議論した。そのほか、ダバオ市のラジオ局  
 「Radyo Ni Juan station」に出演し、A-PAD の役割について説  
 明。同年 10 月にはダバオ市商工会議所とダバオ市 DRRMO、同年 11  
 月に米の卸売業者などと会合を開き、今後の連携に向けた調整等  
 について協議した (添付書類 1 の写真⑤a、b 参照)。

#### (v) 主要 3 地方における全体会合の実施

3 地方で企業、行政から代表者を招き全体会合を開催した。計 13  
 4 名が参加した。

#### ルソン島

2016 年 2 月 19 日にナガ市で「Enhancing Community Disaster  
 Resilience through Public and Private Sector Cooperation」を  
 テーマに全体会合を開き、企業、市民社会組織、地方自治体、メデ  
 ィア、教育機関から約 30 名が出席した。ビコール地方のみでな  
 く、ルソン島北部のイロコス地方や中部ルソン地方などルソン島全  
 土から参加し、各参加者がそれぞれの知見を共有し、過去の災害対  
 応の経験からの教訓についてお互いに学ぶことができ、参加した各

セクターの代表者が今後も防災・緊急対応の努力を続けていく旨の決意を確認する機会となった。(添付書類 1 の写真⑥参照)。

#### ヴィサヤ諸島

2016年2月23日にセブ市で「Building Unity and Cooperation Towards Efficient Disaster Response」をテーマに実施。災害への備え及び災害対応を向上するためにセクターを越えて統合的アプローチを採用すべく、地域の民間企業、市民社会組織、地方自治体などから約30名が出席し、それぞれが果たしてきた役割、参画の実績、課題について話し合った。特にセクター間のコミュニケーションと調整の欠如が大きな課題として挙げられ、参加者からはA-PAD フィリピンが進めている調整主体の構築の必要性が挙げられ、効果的な災害対応のため、その実現に向けて協議を続けていくことが合意された(添付書類 1 の写真⑦参照)。

#### ミンダナオ島

2016年2月25日に「Disaster Risk Reduction & Management System towards a New Platform in Mindanao」をテーマにダバオ市で開催。地域の防災関係機関代表者が参加した他、百々智子ダバオ領事にご挨拶いただいた。ミンダナオにおいても、マルチセクターが連携して今後の防災・災害対応に積極的に取り組んでいくことを参加者間で合意する機会となった(添付書類 1 の写真⑧参照)。

#### (vi) 全国プラットフォーム設立会合の実施

2016年3月3日に、マニラ市内のホテルにて国際ワークショップと兼ねる形で開催した。同会合にて、企業、NGO、行政のマルチセクターが連携して災害に対応するためのナショナルプラットフォーム「A-PAD フィリピン」の設立を宣言。在フィリピン日本国大使館公使、フィリピン国上院議員、国家災害対策本部(NDRRMC)本部長、A-PAD 理事長など150人が出席した。A-PAD に加盟するアジア各国の災害対応の経験と事例を共有するとともに、フィリピン国内外でフィリピンの企業・行政とNGOが今後どう連携を図ることができるか、その可能性を模索するための議論を展開した(添付書類 1 の写真⑨参照)。

・設立会合、国際ワークショップの様子は在フィリピン邦人向け日刊紙「まにら新聞」のほか、「CNN Philippines」でも紹介された(添付書類 2 参照)。

#### (vii) プラットフォームの認知向上のための各種広報資料の作成と配布

・広報資料としてパンフレット500部を発行。パンフレットでは4事務所の詳細やA-PADの役割、機能、もたらす効果などについて紹介している(添付書類 3 を参照)。

・国際ワークショップ終了後、報告書を200部作成し、参加者や関係機関に配布した(添付書類 4 参照)。

	<p>(viii) プラットフォームを通じた連携事例等を広報するためのウェブサイトの構築と運用 本事業で計画していたウェブサイト (URL : <a href="http://apadph.com/">http://apadph.com/</a>) を 2016 年 2 月に開設。台風被災者支援活動の様子や会議、ワークショップなどについて積極的に広報活動を展開している。</p> <p><u>(イ) 関係機関の防災能力向上のための人材育成・組織強化の実施</u></p> <p>(i) 地方防災・官民連携ワークショップの開催。 ワークショップはナガ市、セブ市、ダバオ市でそれぞれ開催され、効率的かつ効果的な協力体制の構築に向け、協力事項や互いの持つリソースなどを確認した。計 106 名が参加した。</p> <p><u>ビコール地方</u> 2015 年 12 月 11 日にナガ市で開催。メトロナガ商工会議所、メトロナガ開発委員会などから約 30 名が参加し、防災・災害対応に関する現行の政策、事業、戦略を調和のとれたものとするための議論や、民間セクターやその他のステークホルダーが災害対応、被害回避のために果たし得る役割・参画の形を話し合うことができた (添付書類 1 の写真⑩参照)。</p> <p><u>ヴィサヤ地方</u> 2016 年 2 月 13 日にセブ市で開催。地方自治体、民間企業、CSO などから約 30 名が出席した。コーディネーション (Coordination)、コラボレーション (Collaboration)、コーポレーション (Cooperation) の 3 つの「C」が大規模災害時の支援には欠かせないとして、関係者に協力を呼びかけた (添付書類 1 の写真⑪参照)。</p> <p><u>・ミンダナオ地方</u> 2016 年 2 月 16 日にダバオ市で企業と地方自治体の関係者を招き実施した (添付書類 1 の写真⑫参照)。</p> <p>(ii) テーマ別勉強会の実施 マニラを除く 3 地区で上記の通り実施し、各地区の災害対応団体や地域コミュニティ代表など計 162 名が参加し、フィリピンの過去の災害事例を基に、地域の防災、災害対応などについて議論し、知識を深めた。</p> <p><u>ビコール地方</u> 2015 年 9 月 10 日にナガ市で開催。メトロナガ商工会議所などを中心に南カマリネス州の 14 の市から参加。企業と CSO が防災にどのように協働して取り組むか協議した。 2015 年 9 月 12 日にも開催し、政府機関や企業、メディア、大学などから 80 名が参加した。両日の議論のテーマは “Towards a New Platform for Reducing Risk and Raising Resilience” であった (添付書類 1 の写真⑬参照)。</p> <p><u>ヴィサヤ地方</u> 2015 年 10 月 2、3 日の両日、“Enhancing Human Resource Capital on Philippine Disaster Risk Reduction and Management” をテー</p>
--	----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

マに開催。ヴィサヤ地方から 80 名が参加し、防災、災害管理の考え方やアプローチ、手法について理解を深めるとともに、官民連携の可能性を探り、民間セクターの防災への関わりについての教訓を学ぶことができた（添付書類 1 の写真⑭参照）。

#### ミンダナオ地方

2015 年 11 月 26 日にダバオ市で開催。テーマは“Developing a Disaster Management System Towards a New Platform in Davao City”。行政、民間企業等から 56 名が参加し、災害支援に民間が政府、CSO とより連携して取り組めるための方策について協議した（添付書類 1 の写真⑮参照）。

#### (iii) 本邦およびスリランカ、インドネシアでの研修の実施

##### ・日本研修

2015 年 11 月 30 日から 12 月 3 日まで、東京の A-PAD 本部で、フィリピン人 2 名、スリランカ人 2 名、インドネシア人 2 名、バングラデシュ人 1 名、韓国人 1 名の合計 8 名の研修を実施（フィリピンからの参加者 2 名分のみフィリピン N 連事業から支出）。各国の A-PAD の概要や A-PAD プラットフォームの進捗状況の共有だけでなく、日本の災害や東日本大震災における企業連携についての講演、東京臨海広域防災公園の見学等を行い、最後に日本での研修成果の今後の活用について議論した（添付書類 1 の写真⑯参照）。

##### ・スリランカ研修

2015 年 10 月 5 日にスリランカで開催された国際シンポジウムと合わせ、前日の 4 日に A-PAD 加盟各国のジュニアスタッフ 8 名を対象に研修を行った（フィリピンから 1 名参加）。A-PAD 及び A-PAD スリランカ概要に関する講義と、各国事業進捗の報告・共有、会計説明などを行った（添付書類 1 の写真⑰参照）。

##### ・インドネシア研修

2016 年 1 月 19 日にインドネシアのジャカルタで開催された国際シンポジウムに、フィリピンから研修を目的に 2 名参加した。シンポジウム前後に開かれた会議で各国スタッフと事業進捗を共有したほか、シンポジウムを開催するにあたってのノウハウを学んだ（添付書類 1 の写真⑱参照）。

#### (iv) 国際ワークショップの開催

全国プラットフォーム設立会合の項目と重複するため割愛する。

#### (ウ) 国内各地域の緊急支援物資配布体制の強化

マニラ、アルバイ、セブ、ダバオ事務所に各 750 世帯分を配置。物資の内容は以下の通り。

応急処置用品（3 チーム×17 支部）、緊急出動装備品セット（2 セット×3 チーム×17 支部）、プラスチックシート（世帯用、3,000 世帯分）、プラスチックシート（避難所コミュニティ用、100 枚）、ござ（3,000 世帯）、衛生用品セット（3,000 世帯）、ポリタンク（3,000 世帯）、A-PAD ロゴ・日章旗マークプラスチックバッグ

	<p>(3,000 枚) (添付書類 1 の写真⑱、⑳、㉑、㉒参照)  また、2015 年 12 月に支援物資運搬用のトラックも配備した (添付書類 1 の写真㉓参照)。</p>
<p>(3) 達成された成果</p>	<p>(ア) 全国及び各地方における防災・災害対応プラットフォーム組織の設立</p> <p><b>成果 1：官民連携による災害対応のプラットフォームが構築・整備され、防災対応能力が強化されるとともに、広報資料やウェブサイトを通じて官民連携のための組織体制強化の重要性が広く認知される</b></p> <p>2016 年 3 月 3 日にプラットフォームとなる A-PAD フィリピンを設立。同年 3 月 12 日までに、25 団体と災害時における相互協力協定を締結した。協定を締結した団体は以下の通り。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1.Metro Naga Chamber of Commerce and Industry (MNCCI)</li> <li>2.Kapisanan ng mga Brodkaster ng Pilipinas (Association of Broadcasters of the Philippines) Camarines Sur Chapter</li> <li>3.Philippine Information Agency (PIA) Camarines Sur</li> <li>4. Central Bicol State University of Agriculture (CBSUA)</li> <li>5. Mariners Polytechnic Colleges (MPC)</li> <li>6. Metro Naga Development Council (MNDC)</li> <li>7. Naga City Disaster Risk Reduction and Management Office (NCDRRMO)</li> <li>8. Tarabang para sa Bicol Inc. ( TABI )</li> <li>9. University of Southern Philippines Foundation (USPF) Social Work Department</li> <li>10. University of Cebu Lapu-Lapu and Mandaue CARES (Community Awareness Relations and Extension Services)</li> <li>11. Taboan Rice Traders</li> <li>12. Rice Traders in Compostela</li> <li>13. Store Merchandise in Compostela</li> <li>14. Alamar' s Lumber and General Merchandise</li> <li>15. Rotary International District 3860</li> <li>16. International Pharmaceutical Incorporated (IPI) Foundation</li> <li>17. Cebu Bohol Relief and Rehabilitation Center (CRRC)</li> <li>18. East Asian Institute for Local Governance and School for the Arts</li> <li>19. 783 KHZ-Mindanao Media Broadcast Network</li> <li>20. RMC Broadcasting Corporation</li> <li>21. Davao Association of Colleges and Universities Network</li> <li>22. Association of Technical Vocational Institution in Zamboanga del Sur</li> <li>23. South Cotabato Rice Millers' Association</li> <li>24. Mindanao Interfaith Services Foundation (MISFI)</li> <li>25. Philippine Disaster Resilience Foundation (PDRF)</li> </ol>

また、協定は締結していないが、協力関係にある団体は以下の通り。

1. Legazpi City Local Government
2. KBP Albay
3. Davao City Chamber of Commerce
4. Mindanao Business Council
5. Negros Oriental Chamber of Commerce
6. Davao City Central 911 Rescue Unit
7. Pagadian Chamber of Commerce
8. Dinagat Chamber of Commerce
9. Cebu City Chamber of Commerce
10. Office of the Civil Defense Region VII

広報資料として、パンフレット 500部を発行し、関係機関に配布した。また A-PAD Philippines のウェブサイト

(<http://apadph.com/>) を 2016 年 2 月に開設。3 月 12 日までに 25 回の記事を配信。フォトギャラリーに 32 回、ビデオは 4 本をアップロードした。ビデオ 1 本は A-PAD フィリピンの活動を紹介するために制作したプロモーションビデオで、団体の活動について広く認知してもらえるようウェブ上でいつでも閲覧できるようにするとともに、各種会議や他セクターとの打ち合わせの際に活用し、団体の活動に理解を深めてもらうための素材として有効活用が可能となっている。

ウェブサイト <http://apadph.com/>

紹介ビデオ <https://www.youtube.com/watch?v=yALnas9Evig>

**(イ) 関係機関の防災能力向上のための人材育成・組織強化の実施  
成果 2：各種ワークショップ、勉強会、および研修に参加した政府、企業、CSO の各機関において防災・災害対応能力・知識が向上し、官民の連携が促進され、全体として災害対応能力が高まる**

- ・ 地方防災・官民連携ワークショップをナガ市、セブ市、ダバオ市で計 3 回開催し、計 106 名が参加した。
- ・ テーマ別勉強会をナガ市、セブ市、ダバオ市で計 3 回実施し、計 162 名が参加した。
- ・ 2016 年 3 月 3 日に国際ワークショップを開催し、150 名が参加した。フィリピン国内をはじめ A-PAD 加盟国である日本、韓国、スリランカ、バングラデシュ、インドネシアから国際専門家が参加した。
- ・ スリランカ、日本、インドネシアでの研修に参加したスタッフは帰国後、関係各機関間の調整会合などで各国の経験や A-PAD の理念などについて説明した。また、日本研修については A-PAD フィリピンのウェブサイトでも報告された。(<http://apadph.com/japan-staff-training/>)

	<p>(ウ) 国内各地域の緊急支援物資配布体制の強化</p> <p><b>成果 3：緊急支援物資が各重点地域に事前配置され、各関係機関が被災地域に対して迅速な緊急支援を行える即応体制が整備される</b></p> <p>3,000 世帯を対象とする緊急支援物資が 4 地域に配置された。2015 年 12 月にはマニラ事務所に支援物資運搬用トラックも配備され、迅速な緊急支援を行う体制が整備された。</p> <p><b>緊急支援活動</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 台風 24 号</li> </ul> <p>事前配置された緊急支援物資を活用し、2015 年 10 月の台風 24 号 (Lando) 被災者支援では、発災 2 日後に別途手配した米や缶詰などの食料とともに、事前配備していたござや衛生用品、ポリタンク、プラスチックシートなどを配布した。また、PDRF を通じ、衛生用品 1,000 セットが無償で提供され、被災者に配布された。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 台風 27 号</li> </ul> <p>2015 年 12 月にフィリピンを襲った台風 27 号 (Nona) による被災者支援では、食料と事前配置していた衛生用品、プラスチックシートを配布。避難所用のプラスチックシート 2 枚も小学校とデイケアセンターにて提供し、台風によって屋根を失った建物の一時的な屋根として使用され、244 名の生徒が学業を継続することができた。また支援物資の輸送に関し、ソルソゴン州防災局よりトラック 4 台が無償で提供された。ソルソゴン商工会議所から食糧の提供を受けた。支援活動の様子はウェブサイトでも報告された。</p> <p>(<a href="http://apadph.com/whats-new/emergency-project-list/">http://apadph.com/whats-new/emergency-project-list/</a>)</p>
(4) 持続発展性	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ CDRC と PDRF が緊密に連携し、緊急時にそれぞれの持つネットワークを最大限に活用し、迅速な支援活動ができるよう協力体制を構築する。具体的には定期的な会合を持つほか、広報、人材育成等を共同で行っていく。</li> <li>・ 協定を締結した 25 団体との間で、互いのリソースや連携体制について恒常的に連絡・調整を行う機能を培うことにより、A-PAD フィリピンの発展的な組織運営体制を構築する。また、引き続きマニラを含む 4 地区でのネットワークの拡大を図っていく。効果的な被災者支援を実現するため、災害時の情報共有、物資調達・配布や輸送、防災トレーニング、知識や技術、ノウハウの共有などの面で連携・協力していく。</li> <li>・ 日本をはじめ、A-PAD 加盟国と連携し、各国の災害や防災の取り組み、また支援活動を通して得られた知見や課題などを共有し、国際的なネットワーク体制の構築をさらに進める。</li> </ul>